

〔類聚名義抄〕日明日〇アス

〔伊呂波字類抄〕天安象明日 翌日アケルヒ 〔同見疊字〕明日 〔同與疊字〕翌日ヨクジ

〔下學集〕上時節翌日次日

〔和爾雅〕二時明日 翌日又作來日來辰 詰日次日 嗣日翌日 翌日翌音

〔書言字考節用集〕二時候 明日翌日 韻會明 明日來日 翌日並同

〔日本釋名〕上時節明日アス あすとはあかす也、けふあかして後の日也、

〔東雅〕天文晝ヒル略 明日をアスといふは、アは開アなり、スと云ふは、キンといふソと同じく語

助なり、今夜の明けなむ日をいふなり、

〔倭訓栞〕前編二 あす 明日をいふ、あかすの義也、よて眞名伊勢物語に明とのみかけり、列子に日

をよめり、來日也、書牘に明幾日といふも通鑑に見えたり、

〔古事記〕上爾其大神出見而告此者謂之葦原色許男、即喚入而令寢其蛇室略 中 亦來日夜者入吳公

與蜂室略 下

〔古事記傳〕十來日は久流比ルヒと訓べし、書紀に明日旦明年ナツシなどある訓を見るに、明字なるを、阿

久流クとは訓まで、久流ルと訓るは、是古言なるべし、但助辭の都は心得ず、此助辭を置べき言には辨

へたるべきを、い、久流比アケルヒをいふ、

〔日本書紀〕三武 戊午年六月、帥軍而進、至熊野荒坂津略 中 彼處有人、號曰熊野高倉下略 中 明旦依夢

中 敎開庫視之、果有落劔、倒立於庫底板、

〔古事記〕中哀 爾坐其地、伊奢沙和氣大神之命、見於夜夢云略 中 亦其神詔、明日之旦應幸於濱、獻易名

之幣、

〔古事記傳〕三十一 明日之旦は、阿須能阿斯多と、師眞淵の訓れたる宜し、萬葉十五に、安久流安